

高度なシステムに潜む脆弱性

異常時への「備え」が問われている！



12月6日(木)13時39分頃から18時4分までの間、ソフトバンクおよびワイモバイルの携帯電話サービスで通信障害が発生し、ソフトバンクとワイモバイルの携帯電話サービス等が利用できない、または利用しづらい状況となりました。

総務省「平成30年版 情報通信白書」によると、2017年における個人のスマートフォン保有率は60.9%、モバイル端末全体(携帯電話・PHS・スマートフォン)の保有率は84.0%でした。

ICT(Information and Communication Technology)という言葉をよく耳にしますが、略語の直訳でもある情報通信技術の発達により、ICT を利活用した様々なサービスや、ICT を利用したシステムが登場しています。

通信障害は、個人の携帯電話サービスに留まらず様々な分野のサービスに影響



佐川急便では、インターネットから申し込みがあった集荷や再配達の情報ドライバーの専門端末に届きませんでした。

格安航空会社の「ジェットスター・ジャパン」では、スマートフォンでの搭乗券の確認が出来ない状態のため、手作業で搭乗券の確認を行い、3便に遅れが発生しました。

JR東日本では、モバイルSuicaで入金ができない事象や、ホームページで列車予約ができなくなるといった事象が発生しました。

ICT時代、安全とサービスをどのように確保するのか？

ICTを活用した技術革新が推し進められ、社会全体のシステムが大きく変化しようとしています。しかし、高度なシステム化は、ひとたび障害が発生すると、その影響はシステム全体に波及します。

今回の通信障害もそうですが、北海道胆振東部地震での大規模停電も、高度なシステムの脆弱性が問われています。

技術革新でICTを推し進めていく上で、異常時への「備え」が重要です。鉄道の安全とサービスをどのように確保していくのか、一人ひとりが考えていくべき課題です。